

基礎・基本の定着と効果的な教科書の活用について

小 澤 正 則

はじめに

今年の2月に新学習指導要領が発表され、平成24年に完全実施が決定された。それによると、英語科では3学年とも105時間から140時間へと大幅に時数が増えることとなった。週単位では3時間から4時間となり、週5日制が今後とも続くとする、生徒たちはほぼ毎日英語を学習することになる。この時数の増加によって、新しいカリキュラムの作成や教員の時数的な負担が増したりと様々な問題が浮かび上がってくるであろうが、英語を教える立場の人間にとって、生徒たちが今まで以上に英語に触れ、学習できるということは喜ばしいことではある。

また、今回の改正により小学校でも外国語活動として週1時間実施されることとなる。これまでも時数や活動内容の差はあったもののほとんどの小学校で実施されてきたわけであるが、中学校に入学する段階で学習する内容をすでに学習していたり、それに近い学習をしていたりと、個人や出身小学校によって習熟度に差があった。しかし、小学校での外国語活動が導入されることにより、目標や指導内容が統一され、中学校でのスタート地点が今までよりは揃うことになる。今まで中学校での英語学習開始時期に問題視されてきた上記のような問題やそれによるレディネスの問題等は少なくなることと期待している。

さて、現行の学習指導要領の言語活動の取扱いについて第3学年では、「第2学年までの学習を基礎として、言語の使用場面や言語の働きを一層広げた言語活動を行わせること。その際、第1学年及び第2学年における学習内容を繰り返して指導し定着を図るとともに、様々な考えや意見などの中からコミュニケーションが図れるような話題を取り上げること。」とされている。このように既習の事柄と新しく学習した事柄を教師が授業の中で意識的に組み合わせしていく活動を取り入れていかなければ、本当の意味での「基礎・基本の定着」は図れないのではないであろうか。つまり、母語習得の過程において、今まで習得してきたものと新しくインプットしたものをうまく組み合わせアウトプットする作業を行っているように、同様の作業を授業の中に組み入れることは、「基礎・基本の定着」にとっても有効な手段になり得るのではないであろうか。また、その効果を高めるためには、他の教材をあれこれ持ってくるより（それはそれでよい面もあるが）普段授業で使用している教科書を中心に据え、その使用方法を工夫していくことのほうが効果的ではないかと考える。

以上のことから、教科書を中心にその使用方法を工夫し、既習の文法事項や表現と新しく学習したものをうまく関連させながら、学力の向上を図っていきたい。

1. 研究の仮説

教科書を工夫して使用することで、生徒の基礎・基本が定着し、そこから発展的な学習へつながり、学力の向上が図れるのではないか。

2. 研究の実際

(1) なるべく多く教科書の英文を読む～ジャンケン・リーディング～

リーディングテストや暗唱テストの他に、毎回の授業で文法事項や表現の復習やそれらの定着を図ることを目的に、隣同士の生徒でジャンケンをし、勝った（負けた）方が教科書の本文を1文ずつ読んでいくという活動を行った。2分程度の単純な活動であったが予想以上に生徒たちは盛り上がり、大きな声で英文を読んでいた。隣同士が男女だったがほとんど問題なく、むしろそ

の方がいい刺激になり、よかつたのではないかと思う。生徒に少しでも回数多く教科書の英文を読ませることで、今学習している文法事項や表現の定着をかなり図ることができた。

ねらい	文法事項や進出表現の定着を図る。
方 法	隣同士で1文ずつジャンケンをし、勝った(負けた)方が教科書の英文を音読し、片方は正しく言えているかどうか確認する。
アレンジ	①片方の生徒が英文を音読したら、もう片方の生徒はそれを日本語に訳す。 ②片方の生徒が日本語を言ったら、もう片方の生徒はそれを英語に訳す。
効 果	文法事項や進出表現の定着を図ることができる。

(2) 新出の文法事項や表現の

意識化①～ステッカーの工夫～

毎時間のスピーチ活動において、スピーチ原稿やそれに対して生徒がコメントを述べたり、質問するとき、現在学習している文法事項や表現をなるべく多く使うことができれば、基礎・基本の定着に役立つのではないのか、と思い、発表や発言した生徒にはステッカーを配布することとした。

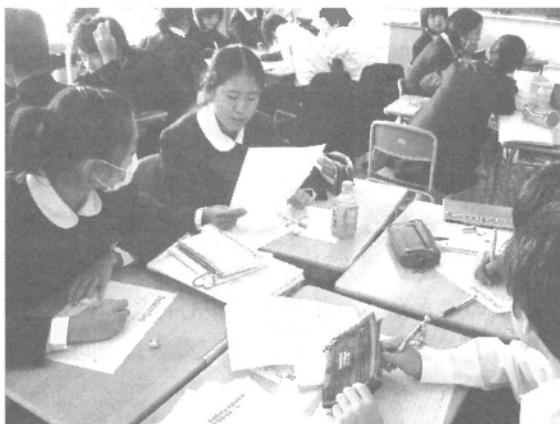
さらに新出の文法事項や表現を意識させるために下ののように3段階にステッカーの種類を分けてみた。3年生で

種類	ステッカーの色(例)	獲得できる条件
1	金 色	一番新しく学習した文法や表現を使用した場合。
2	銀 色	一つ前に学習した文法や表現を使用した場合。
3	緑 色	上記以前に学習した文法や表現を使用した場合。

はあったが、挙手や発言する生徒が増え、何とか最近学習した文法を使ってコメントを述べたり、質問をしようとする姿が多く見られた。また、それらの英文を周りの生徒たちが聞くことによって、周りの生徒へもいい影響を与えることができた。

(3) 新出の文法事項や表現の意識化②～スキット作り・英作文～

新しい文法を学習したときにはその都度スキット作りや英作文の活動を取り入れてきた。教科書を参考に、辞書を用いながら学習したばかりの文法を使用し、個人またはペアで行ってきた。(資料1, 2)



教科書を基本に置いた指導をしてきたので、場面設定はほとんどの場合教科書に即したものとした。口頭練習を行った後にその文法のまとめとして“書く活動”を取り入れることは、定期テストの英作文問題の結果や高校受験対策での英作文練習において大きな文法的な間違いが見られず、ほとんどの生徒がすらすらと書くことができたことから、とても効果的であったと思う。

① 実践例1 (教科書NEW HORIZON English Course 3, Writing Plus 1での実践)

単元計画 (全2時間)

(第1時)

本時の目標

- ・優先席を巡るいろいろな考えを読み、自分なりの意見をもつことができる。
- ・自分の意見とその理由を、文章の構成に気をつけて書くことができる。

	学 習 内 容
第1時	教科書の例を参考に文章の構成や使える英語表現を学習し、実際に自分の意見を英文で書く。
第2時	発表の練習と発表会



時	主な学習活動	教師の支援(○)と留意点(●)
5	・スピーチ活動	●質問やコメントが出やすい雰囲気を作る。
2	・ジャンケン・リーディング	○机間支援で正確な発音ができていなければ、できるように支援を行う。
15	・教科書のStep1～Step3	○大事な表現はパターンプラクティスを取り入れる。
28	・意見文を書くときに使える英語表現の導入と練習 ・意見文作り ワークシートの中からテーマを1つ選び、意見文を書いていく。	●今までに学習した表現で例を提示し、次の活動へつなげる。 ●辞書を使っても良いが、未習の単語や表現は最小限にとどめさせる。 ○机間支援をしながら、適宜アドバイスをを行う。

[資料1 意見文ワークシート・評価用紙]

<p>Your choice We should study English.</p> <p>Your opinion</p> <p>I think we should study English, too. These are my reasons. First, many foreigners live in Japan. For example, if they ask us about the way, we can answer it. But, if we can't speak and write English, we can't tell about it well. So foreigners will take trouble to live in Japan. Second, if we can speak and write English, we may be interested in foreign cultures. I have learned about American cultures. American cultures are interesting. So, we should be interested in foreign cultures more. It is important for people all over the world to know foreign cultures.</p>	<p>Your choice Young people may sit in a priority seat.</p> <p>Your opinion</p> <p>I think that young people may sit in a priority seat. There are my reasons. Priority seats are not only for old people. Many old people need priority seats, but there are some young people needing the seats except old people, too. For example, injured young people, young mothers with babies, pregnant young women, and so on. They are not old, but it is not easy for them to stand in the train. But healthy young people shouldn't sit in priority seats. One day, I took the train. There are a young man sleeping in a priority seat. He looked very tired, but he didn't stand up when he saw an old person. Then I thought young people may need in the seat when they are tired, but they must stand up when they saw old people. Priority seats are for all of the people needing the seat truly.</p>
--	---

Evaluation Sheet

No.	発表者	速さ	発音	態度	内容	理解力	コメント	順位
1	人	A	B	B	A	A	わかりやすく、内容がよかったです。	3
2	人	A	A	B	A	A	理由がよく、とても聞きやすかったです。	1
3	君	A	A	A	B	A	声がよく、内容がわかりやすかったです。	2
4	君	B	A	B	A	A	内容がよく、態度が良かったです。	
5	君	B	A	B	A	A	僕の意見に答えていて面白かったです。	
6	人	B	B	B	A	B	少し遅かったです。内容も良かったです。	
7	君	A	A	B	A	A	理解力があつ、とても良かったです。	3
8	人	A	A	A	A	A	エピソード、聞き取りやすかったです。	1
9	人	A	A	B	A	B	少し声小さかったですけど内容は良かったです。	
10	人	A	A	A	A	A	とても内容がよく、理解力があつ、	2
11								
12								

(第2時)

本時の目標

- ・自分の意見を他者に聞かせる発表ができる。
- ・発表者の意見をきちんと聞き、自分なりの評価をすることができる。

時	主な学習活動	教師の支援(○)と留意点(●)
5	・原稿の確認と発表練習	○発音等で質問があれば、それに答える。
20	・グループ発表 5人のグループをつくり、順番にグループ内で発表していく。 グループ内で代表者を1～2名決める。	●グループで順番を決め、全体で一斉に始める。 ●評価する時間を持つ。
25	・全体発表 グループの代表が順番に発表していく。スピーカー以外は聞いたスピーチの評価をしていく。	●黒板に順番やタイトルを書き、雰囲気作りにも気を配る。 ○未習の単語や表現でわかりにくいものは発表後簡単に説明をする。 ●評価する時間を持つ。(後日、結果発表を行う。)

② 実践例2

教科書NEW HORIZON English Course 3, Unit 3での実践

学習内容	不定詞の原因を表す副詞的用法を理解し、表現する。
------	--------------------------

本時の目標

- ・不定詞の原因を表す副詞的用法の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・不定詞の原因を表す副詞的用法を使って、まとまりのある英文を書き、それを相手に伝えることができる。

実際の定期テストの設問より

1 学期中間テストより

〔設問〕「わたしの修学旅行記」を次のような内容で、5文以上の英文で書きなさい。なお、解答用紙には1行につき1文で書きなさい。

内 容

- どこに行ったのか
- 旅行の目的
- 強く印象に残ったところ

1 学期期末テスト問題より

〔設問〕相手を何かに誘う短いスキットを作ってみましょう。誘う側、誘われる側ともそれぞれ1～2文で、誘われる側はその誘いを受ける場合と断る場合の2つのパターンを考え、解答用紙に書きなさい。

2 学期期末テスト問題より

〔設問〕あなたはアメリカから来た留学生を夕食に招待することになったとします。以下の対話が成り立つように「あなた」の台詞を5語以上の英文で考えなさい。コンマ、ピリオドは1語として数えないものとします。

あなた：Please help yourself.
 留学生：Thank you.
 あなた：①()?
 留学生：Yes, please. That looks delicious.
 あなた：②()?
 留学生：May I have some cola?
 あなた：Of course.

3 学期期末テスト問題より

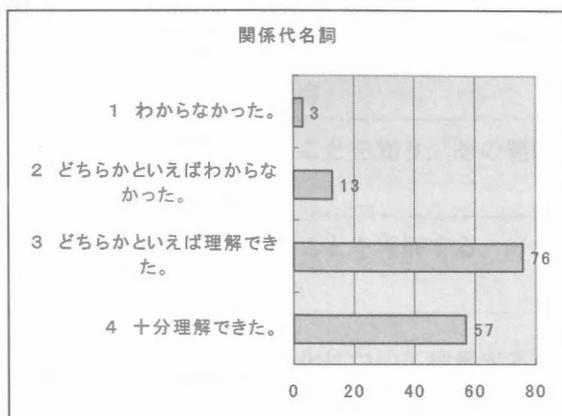
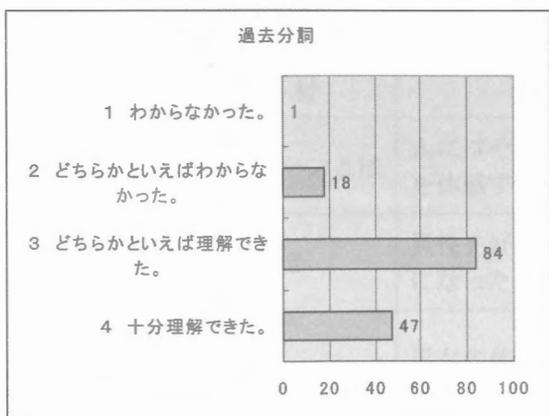
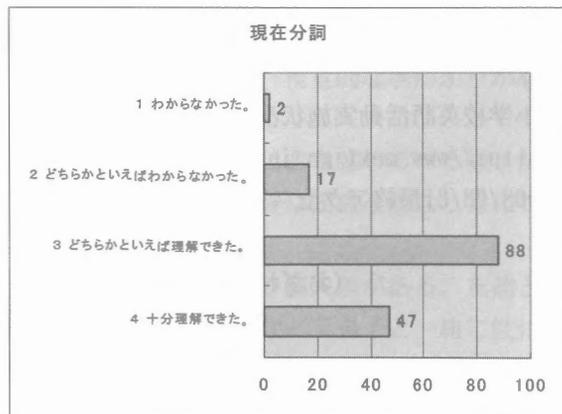
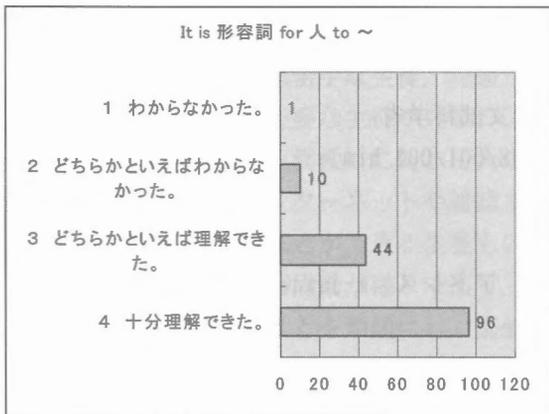
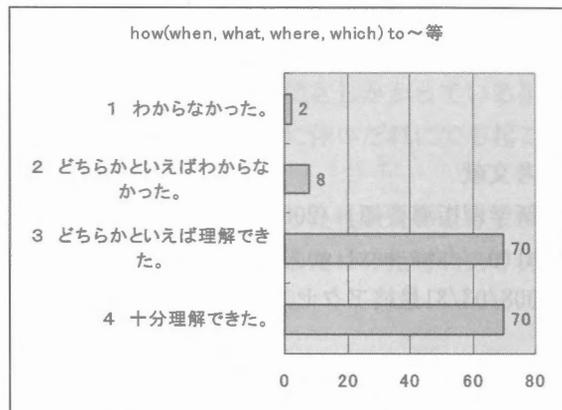
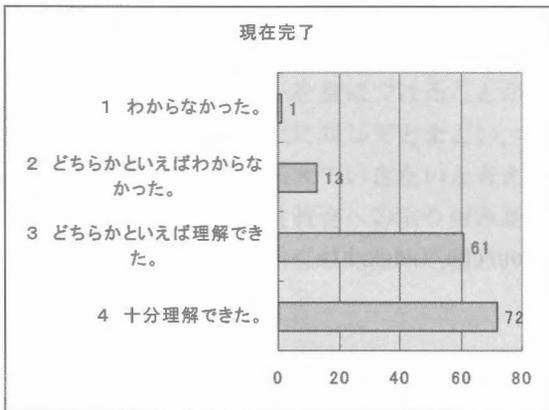
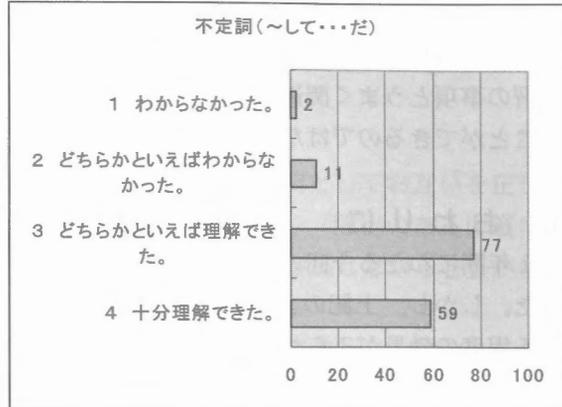
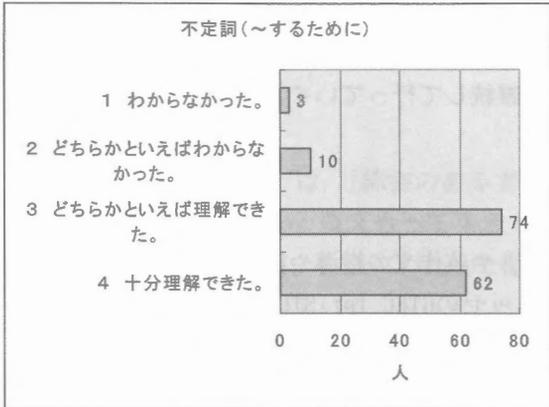
〔設問〕今度、学校のホームページに英語で附属中学校の紹介をすることになったとします。あなたならどんな紹介文を書きますか。ただし、下の条件に従って書かないといけないこととします。

条 件

- 1、20語以上の英文で書くこと。
- 2、2文以上の英文で書くこと。
- 3、数字は何桁であっても、1語とすること。
- 4、コンマやピリオドなどの符号は語数として数えないものとする。

3. 考察

以上の実践を1年間行ってきた3年生に対して、学習した主な文法事項について、それぞれの理解度をアンケートで確かめてみた。結果は以下のようであった。



上記の結果から、多くの生徒たちが1年間学習してきた内容を理解できたと感じていることがわかる。新しい表現や文法事項を学習するときに、以前学習した内容を何度も使うことで理解が深まった生徒も多くいたのではないかと思われる。一般的に中学3年生が難しいと感じる「分詞」や「関係代名詞」においても、多くの生徒が理解することができたことは、今回の取り組みが有効であったことを示していると思われる。新出の文法事項を学習する時にそのみの練習や活動になりがちであるが、既習の事項とうまく関連させることのできる取り組みを継続して行っていくことでさらに効果を高めることができるのではないかと思う。

4. おわりに

1年間にわたる今回の研究を通して、授業でのスキットや英作文の指導や添削にはかなり時間を割いた。しかし、上記のような結果や県の学力調査、ベネッセのGTEC for STUDENTSの検査においてもある程度の効果がみられ、うれしく思う。今後も教科書を基本に新しい文法事項や表現を学習しながら同時に既習の事柄についても復習が繰り返しできるような方法についての研究を深めていきたいと考えている。その際、今後ますます多忙になるであろう教師の過度の負担にならず、生徒の学力の向上に役立つ指導方法を探っていきたいと思う。

参考文献

「新学習指導要領」(2008)、文部科学省
<http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/index.htm>
(2008/03/31最終アクセス)

「小学校英語活動実施状況調査」文部科学省
<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/03/06031408/001/002.pdf>
(2008/03/31最終アクセス)

「小学校英語活動実施状況調査結果概要(平成17年度)」文部科学省
<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/03/06031408/001/001.htm>
(2008/03/31最終アクセス)

(おざわ まさのり 英語科 E-mail アドレス m-jawa@edu.shimane-u.ac.jp)